

元気のひけつ

水着の上にTシャツを

クラゲに刺されないために

「こころを露出させるのは危険です」と指摘する。水着の上にTシャツなどを着用すると、刺されるのが減り、日焼け対策にもなる。それでも出てしまう首や手の甲などには日焼け止めやワセリンなどを厚めに塗ると、毒針が届かず、被害を防げる場合があるという。

また、クラゲは浮遊しているため、風によって流される。沖から風が吹いたり、吹きだまつたりしている場所は注意が必要だ。

もし刺されてしまったら――。

井階さんたちの救護所では、用意した海水で刺胞を洗い、痛みが強ければ、市販の消炎鎮痛剤の塗り薬を使う。井階さんは「酢をつけたり、温水に入れたりすることを奨励している例がありますが、統一された見解ではなく、種類によっては悪化することもあるため、一概にはおすすめてできません」と言う。(小坪遊)

夏休みに海水浴を計画している人も多いでしょう。海につきものなのが、クラゲ。プカプカ浮かぶ姿はのんびりしていますが、刺された時の激しい痛み、その後のヒリヒリ、チクチクした感じは不快です。救急搬送が必要になったり、ショックで亡くなったたりする場合もあり、あなごれません。



クラゲが出るのはお盆過ぎというイメージが強いが、実はもっと早くから出没する。福井大医学部の井階友貴助教(地域医療学)は、学生ボランティアら15人前後と毎年7〜8月の週末、福井県高浜町で救護所を開く。2007〜09年に起きた約150件のアンドンクラゲによるとみられる被害のうち、8割近くは8月第2、3週に集中していた。一方で、8月第1週には計17件、09年は7月最終週にも4件の被害があった。

私(記者)もクラゲに刺される体験ができないかと考え、新江ノ島水族館(神奈川県藤沢市)に申し込んだが、「ひどい人では命にかかりますので」と丁寧に断られてしまった。代わりに、針はあるが、短くて被害がなごれません。

ズクラゲを触らせてもらった。

クラゲの被害について、東京海洋大学の永井宏史教授(海洋天然物化学)を訪ねて、クラゲ刺傷の写真を見せてもらった。太ももいっぱいのみみず腫れ、グラブのように腫れ上がった手――まことに痛々しいものばかり。クラゲの毒は、触手にある「刺胞」というカプセルに入っている。人間やエサとなる動物が触れると、刺激で毒

針が発射され、毒が注入される。永井さんは、世界で初めて、クラゲの毒の正体を明らかにした研究者だ。「細胞に穴を開けて、壊してしまつたんばく質でした。これが炎症や水ぶくれを起こしているのではないかと考えています」。日本のクラゲで被害が激しいのはアンドンクラゲ、カツオノエボシ、ハブクラゲの3種。サーファースに被害が出るが、夏には姿を

消していくアカクラゲ、刺されたときはそれほど痛みを感じないが、後で高熱が出ることもあるカギノテクラゲも要注意だ。



「クラゲの刺傷被害は生態をよく知ることでもかなり防ぐことができます」。そう語るのは水産大学校の上野俊士郎教授(水産環境学)。上野さんは「皮膚が薄いと

クラゲに注意!

- 女性や子ども、アトピーなどで肌が弱い人が被害に遭いやすい
- 浜辺に流れ着いたクラゲにも刺胞は残っている。不用意に触らない

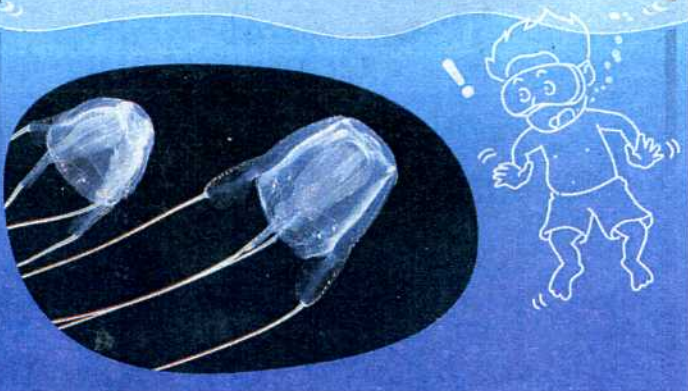
刺された時は

- あわてない。暴れると余計触手が絡みつく危険性がある
- できれば海水中で患部を洗って、残った刺胞を取り除く
- 気分が悪い、しびれ、腫れが引かない場合などはすぐに病院へ

これはダメ

- 真水で洗うことや、砂やタオルでこするのは厳禁
- 酢はカツオノエボシには逆効果

刺傷被害を出す主なクラゲの発生時期



The Asahi Shimbun

インターネット

クラゲファンや研究者らが参加するサイト「fish (シーフイッシュ)」(<http://www.fish.net/>)にて、クラゲに関する書籍や画像を紹介。会員も募集している。クラゲ同士はお互いを刺すことはなく、クラゲに刺されない魚もいる。こういった性質に着目したという、クラゲ予防ローションもある。試してみるのも一つの手かもしれない。

写真はアンドンクラゲ=新江ノ島水族館提供